

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 福井 千絵

本研究は、特別養護老人ホームに入居していた認知症をもつ人の家族介護者において、複雑性悲嘆の実態を明らかにし、人生の最終段階における医療・ケアに関する満足度と家族内の意見の相違という2つの概念が複雑性悲嘆に与える影響を探索的に検証することを目的としたものであり、下記の結果を得ている。

1. 複雑性悲嘆の実態を明らかにするために、特別養護老人ホームに入居していた認知症をもつ人の家族介護者に対して、全2回の質問紙調査による前向き観察研究を実施した。研究協力者59名のうち、**Brief Grief Questionnaire** 8点以上の複雑性悲嘆を呈している研究協力者は8名(9.5%)であった。米国のナースィングホームに入居していた認知症をもつ人の遺族を対象とした先行研究においては、複雑性悲嘆の割合は20%であるが、日本国内における認知症をもつ人の家族や特別養護老人ホーム入居者の家族を対象にした悲嘆の調査は未だない。しかしながら、日本国内では、遺族の2.5-2.6%、緩和ケア病棟で死亡したがん患者の遺族の2.3-14.0%が複雑性悲嘆を呈していたと報告されている。以上のことから、特別養護老人ホームに入居している認知症をもつ人の家族介護者は、遺族全般に比べると複雑性悲嘆のリスクが比較的高く、緩和ケア病棟で死亡したがん患者の遺族と同様にハイリスクな集団であることに注意する必要があるが示唆された。
2. 人生の最終段階における家族内の意見の相違と複雑性悲嘆の関連については、**Mann-Whitney** のU検定により、家族内の意見の相違尺度の合計得点は、複雑性悲嘆あり群が13.6点(SD = 3.7)、複雑性悲嘆なし群が20.2点(SD = 9.3)であり、複雑性悲嘆あり群の家族内の意見の相違が有意に小さいことが示された($p = .001$)。先行研究においては、人生の最終段階における家族内の意見の相違の大きいことと複雑性悲嘆との関連を報告しており、本研究では先行研究と逆の関連が示された。先行研究と異なる結果が出た理由として、研究協力者集団・測定概念の違いによるもの、本調査の測定尺度の特徴によるもの、リクルートによるものの3つの可能性が考えられた。本研究では、以上3点の理由により、先行研究とは異なる結果が導かれた可能性があるため、人生の最終段階における家族内の意見の相違と複雑性悲嘆の関連については、さらなる詳細な検討が求められる。しかし、本研究の結果は、特別養護老人ホームに入居している認知症をもつ人の人生の最終段階において、家族内の意見の相違が大きい家族ばかりで

なく、家族内の意見の相違が全くない・小さいと認識する家族介護者も支援の対象とする必要性を示唆しているかもしれない。そのため、家族内の話し合いがどのように行われているかを再確認する等して支援を講じることが、複雑性悲嘆の予防として有用である可能性が考えられる。

3. 人生の最終段階における医療・ケアに関する満足度と複雑性悲嘆の関連については、Mann-Whitney の U 検定により、人生の最終段階における医療・ケアに関する満足度の下位尺度「利用者への説明・意思決定」は、複雑性悲嘆あり群が 36.1 点 (SD = 41.4)、複雑性悲嘆なし群が 77.7 点 (SD = 25.5) であり、複雑性悲嘆あり群の「利用者への説明・意思決定」の満足度が有意に低いことが示された ($p = .025$)。このことから、「利用者への説明・意思決定」の満足度を高めることは、複雑性悲嘆を予防する可能性が示唆された。家族介護者が、「利用者への説明・意思決定」に主観的に満足することは、本人の尊厳や利益を守ることができたと感じ、家族介護者の後悔や罪悪感を減らし、複雑性悲嘆につながることを予防すると考えられた。たとえ、認知症をもつ人の意思がわかりにくくとも、本人を中心とした話し合いができるように、本人の希望や利益を家族内で話し合うことを促す介入を行うことが、家族介護者の複雑性悲嘆の予防に有用である可能性が考えられる。

以上、本論文は、特別養護老人ホームに入居していた認知症をもつ人の家族介護者において、全 2 回の質問紙調査による前向き観察研究を行い、複雑性悲嘆の実態を明らかにした。加えて、人生の最終段階における医療・ケアに関する満足度の下位尺度「利用者への説明・意思決定」、人生の最終段階における家族内の意見の相違が、複雑性悲嘆に影響を与えている可能性を見出した。本研究はこれまで明らかにされてこなかった、日本国内の特別養護老人ホームに入居していた認知症をもつ人の家族介護者の複雑性悲嘆の実態を明らかにし、具体的な予防的支援の提案に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。